

(様式第4号)

上田市行財政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	上田市行財政改革推進委員会
2	日 時	平成19年 8月28日(火) 午後1時から午後5時まで
3	会 場	上田市役所 南庁舎 5階 第3・4会議室
4	出席者	小池会長、宮沢副会長、鬼頭委員、久保木委員、斉藤委員、高橋委員、田口委員、武井委員、土屋委員、西沢委員、花岡委員、三井委員、森田委員、米津委員 【欠席委員】小宮山委員
5	市側出席者	金子行政改革推進室長、宮沢室長補佐、平田主任
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者 0人	記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成19年 9月 3日

協 議 事 項 等

1 開 会 (金子室長)

2 あいさつ (小池会長)

前回まで3日に分けて実施した施設見学を受けて、実際に施設の運営を担当する行政の担当課から、施設の説明を受け、その後質疑応答に移って行きたい。

3 協議事項

(1) 議題の概要

- ア 集中改革プランに基づく施設経営の見直し担当課ヒアリング
- イ 次回以降の予定について

(2) 審議概要

- ア 施設経営見直しに伴う担当課ヒアリング

<鹿教湯健康センター(クアハウス鹿教湯)> 【担当課：丸子地域自治センター産業観光課】

(担当課) クアハウス鹿教湯は昭和58年に観光を目的として建設され、(株)丸子温泉開発に管理を委託して運営してきている。平成18年度から指定管理者として、引き続き(株)丸子温泉開発が管理している。

建設当初、利用者のうち観光客が占める割合が9割を越えていた。現在は、市民ニーズの変化からか、市民の利用割合が増えてきており(5割程度) 観光目的というよりは、市民の健康づくりの場としての位置付けが大きくなってきている。

今後はクアハウスで実施しているメニューが「健康づくり大学」の内容と酷似していることから、「健康づくり」の拠点施設として、活用していくことが必要と考えている。

課題としては、現在受託している(株)丸子温泉開発の経営体質強化が挙げられ、場合によっては、(株)丸子温泉開発が赤字を抱えているクアハウスの管理業務を手放すことも考えられる。

今後の方針としては、鹿月荘を受託管理している丸子地域振興公社で鹿月荘とクアハウスを一体的に管理してもらえればありがたいと考えている。

(会 長) 今日、一番確認しておきたいことは、役所として、今後施設をどうの方向に持って行きたいのか。廃止、民営化、直営あるいは指定管理者が管理するのかということ。

(担当課) 施設の民営化については、施設の土地が借地であるため、地権者の意向を確認し、合意を得ることは相当困難であると考え。また、建設時に国からの補助金ももらっているため、施設の今後の運営方法としては、指定管理者による管理が妥当であると考え。

(会 長) 現在の経営状況から脱却するために、どのような経営改善の方策を検討又は実施しているのか。

(担当課) 一時に比べて、鹿教湯温泉の連泊の利用者が減少しているため、市民の健康づくりの場として利用促進を図るため、新たな経営方針を立てて新規利用者の確保をしていきたい。

(委 員) 行政が営利を目的とした施設を運営する必要はないと思うが、そこへ来て施設経営に対して多額の赤字が発生しているが、黒字対策は何かあるのか。

(担当課) 鹿月荘とセットでの話しになるので、ここで、鹿月荘についても説明をさせて欲しい。

< 国民宿舎鹿月荘 > 【担当課：丸子地域自治センター産業観光課】

(担当課) 国民宿舎は、当時、法により行政のみが設置することが可能であったため、当時の丸子町で鹿月荘を建設した。建設後は、町の特別会計で経営を行っていたが、平成12年から一般会計へ移行し、丸子地域振興公社に委託して経営を行っている。平成17年度からは、指定管理者として引き続き公社に管理を委託している。

鹿月荘については、建設に際して国庫補助等を受けずに建設したため、民営化が可能であるが、今年かんぼの宿が民営化されたため、鹿教湯地区で唯一の公設の宿として存在している状況であり、利用者等の意見等も参考にしながら、今後のあり方について検討する必要がある。

また、公益法人制度改革が来年実施されることから、旧市町村の公社・公団の統合等の動向を踏まえて、施設経営のあり方も検討する必要がある。

鹿月荘は、平成12年からの委託の経過の中で、1度も赤字を出していない。過去には、施設使用料として年間1,000万円程度一般会計に納めてもらっていた。(現在はなし。)

施設の問題点としては、各客室にトイレが設置されていないため、全室にトイレの設置を行いたい。また、利用客からの要望として、露天風呂の設置、エレベーターの設置なども挙げられている。

お客様に少しでも満足して帰ってもらうために、食事の内容も見直し、良い料理を提供するため、現在一泊一人当たり1,800円程度の食材費を充てている。

(会 長) 先ほどの委員の質問「行政が収益施設を運営する必要はないのではないか。」に対する回答をお願いしたい。

(担当課) 民営化、民間への譲渡は可能であると考えますが、建設時の経過から、当時は行政でしか建設できなかった経緯がある。また、公設の旅館が鹿教湯にあることにより、鹿教湯全体の発展に寄与してきたという思いがある。

(委 員) 施設を継続していく上で、クアハウスと鹿月荘をひとつの指定管理者で管理をしていくことは悪いことではないと思うが、仮に施設を廃止した場合にはどんな影響が出ると思うか。

(担当課) 鹿教湯への客の入り込みが、ピーク時の4割程度に落ち込んでいる状況の中、最近注目を集めている「健康づくり大学」について、クアハウスで行っているトレーニングメニューが健康づくり大学のメニュー内容とほぼ同じであることから、クアハウスを拠点施設として位置付けていくことが必要であると考えため、廃止することによる影響は大きいと考える。

(委 員) 市民の健康づくり対策などは、単に収支を見るのではなく、赤字が出ようとも継続していく必要があると思う。鹿教湯からクアハウスがなくなると、鹿教湯の魅力が半減すると思う。

鹿月荘の食材費について、一人1,800円は高すぎる。それだけ費用をかけるのであれば、もっと工夫をして良いものになるはずである。原材料費が高すぎる。

(担当課) 赤字を出していない施設であるため、あまり意識をしてこなかった部分。

(委 員) 全客室へのトイレの設置、エレベーターの設置、露天風呂の設置について、市役所内部での判断の経過があれば教えて欲しい。

- (担当課) 施設改修に当っては、一般財源の使用を極力抑制するために、国土交通省の「まちづくり交付金事業」の補助制度を活用し、行政で作成する「実施計画」において事業計画を策定し、実施計画に沿って事業を実施しているところである。
- (委員) クアハウスの利用料について、現在の700円から値上げをする必要があると思うが値上げについてどのように考えているのか。
- (担当課) クアハウスだけを見た場合、人件費等を賄うには、値上げを行っても追いつかない状況であるが、現在の利用料700円については妥当な設定と考えている。
- (委員) 施設の利用料を考える時に、客一人当たりのコストはいくらなのかを計算する必要がある。事務局で9施設の客単価について作成をお願いしたい。
- (事務局) 民間事業者で算出するコスト計算は行政では当てはまらないため、行政側で前提を統一した上で9施設の客一人当たりのコストを計算する。
- (委員) 鹿教湯全体の今後のビジョン(観光戦略)があると思うが、あればそれを示してもらいたい。
- (担当課) 現在、策定中である。
- (委員) 鹿教湯の利用客が落ち込んでいるが、最大の理由は何であると思うか。
- (担当課) 最大の理由は、連泊利用者の減少が影響していると思われる。

<武石温泉うつくしの湯>【担当課：武石地域自治センター産業観光課】

- (担当課) 施設建設に際しては、住民のアンケートによる要望と、ふるさと創生事業資金を活用する観点から平成11年度に建設した。管理運営は、建設当初から武石開発公社に委託している。現在、うつくしの湯の運営のために公社で13人の職員(臨時等)を雇用しており、地域雇用の確保が図られ、地域貢献に寄与していると考えられる。次回以降、指定管理者の選定を行えば、公社よりも経営基盤が安定した企業等が参入することが考えられるが、地域雇用の観点からも、今のところ、武石開発公社に委託することが妥当であると考えている。また、マレットゴルフ場と隣接していることから、観光産業に対しても寄与しているものと感じている。
- (会長) 一般財源の支出を抑えるために経営改善策は何かあるのか。
- (担当課) 立地状況等から、年間11万人の利用者数はある程度良好であると判断できる。食堂部門については、売り上げ前年度比104%と好調で、温泉には、季節感を持たせるために、菖蒲湯などを実施している。また、流行のマイナスイオンが発生する仕掛けなども行っている。公共施設ということで低下しがちな職員のモチベーションについても、類似施設等への視察などを行う中で刺激を得られるようにしているとともに、接客マニュアルを作成し、親切丁寧な対応を心がけている。更なる利用者増を図るため、地域内で行われる観光イベントなどで来客者に割引券を配った結果、観光イベント来訪者の施設利用増の効果が得られている。
- (委員) うつくしの湯は交通の便が悪くネックになっているが、デマンド交通などを導入していく考えはないか。
- (担当課) デマンド交通については、大屋駅から武石地域の間で運行しており、武石地域内ではどこでも乗り降りできるようになっている。
- (委員) 泉質もよく、フロントの対応も良い施設で、また利用したいと思うが、利用者として料金が安いのではないかと感じる。利用料金の値上げは考えているか。
- (担当課) 施設建設当初は、入館料350円であったが、途中から400円に値上げをした。その際、住民等利用者からの反発が大きかったことから、当面値上げは考えていない。
- (委員) 実際の問題として、重油等の価格が高騰している中、それを理由に値上げしても文句を言う人はほとんどいないと思われるが…。

(委員) 通年券について、現在1回当たりの料金が70円程度となっているが、値上げの対象として考えても良いのではないかと。東御市でも通年券を25,000円から40,000円に値上げした実績がある。

(委員) 割引券の配布は、武石地域内のみで実施しているのか。上田市全体で配布する考えはないか。

(担当課) 現在は、中学生以上の大人料金の利用者に対し、武石地域内での配布のみ。この補助制度は、武石の健康福祉課の事業として実施しているため、今後、健康福祉課と協議を重ねる中で、全市に拡大することを検討していく。

(委員) 施設を廃止した場合の影響はどのように考えるか。また、民間に移譲した場合の影響はどうか。

(担当課) 住民の要望によって建設された施設であり、また、合併直後でもあり、合併によって施設が廃止されたと思われることは避けたい。

民活の導入の推進に当っては、不可能ではないが、公社が担ってきた地域雇用がなくなることから、影響は大きいと考える。

(委員) 現在、公社が管理を行うことによって得られる利点などを明らかにすることも必要であると考える。

<岳の湯温泉雲溪荘>【担当課：武石地域自治センター産業観光課】

(担当課) 昭和52年にオープンした施設。年々売り上げが減少しており、施設も30年経過したことから老朽化も進んでいる。施設の廃止については、住民感情を考えると難しいと考える。

経営改善のために、消耗品などは1円単位で節減に努め、利用客数を増加させるための目玉として、例えば秋の松茸シーズンには、特別料理として『地物』の松茸料理を提供するなど、新たな企画を試みている。結果、松茸料理は大変好評をいただき、シーズン中は予約がいっぱいになるようになった。

(委員) 料金設定については、どのように考えているか。

(担当課) 損益分岐点を算出して、料金設定を行うことが一番であると考えているが、公共施設であるため、固定資産(減価償却)の取扱が難しく、損益分岐点は算出できない。したがって、類似施設等の料金を参考にしながら、施設規模などを勘案した上で料金を設定している。

(委員) 旧武石村民に対する割引券の取扱は、不公平感を覚えるが、今後どのように取り扱っていくつもりか。

(担当課) 今後地域協議会の中で協議をしていく予定であるが、それまでは、旧武石村の例による。

(委員) 美ヶ原高原には、県外ナンバーの車が駐車場いっぱい止まっているが、その多くは、白樺湖方面へと移動していく。この観光客を武石側に呼び寄せるための努力が必要であると思うが、対応はどうか。

(担当課) 美ヶ原高原を訪れる観光客は、委員ご指摘のとおり、ほとんどが白樺湖方面に移動してしまう。以前は、ある程度の観光客は、武石側に降りてきていたが、ビーナスラインの無料化に伴い、武石へ来る客数が減ってしまった。今後、美ヶ原高原来訪者の武石誘客に向けて努力していきたい。

(委員) 公社の職員構成について、正規職員が他の施設と比べて比率的に多いが何か特別な理由はあるのか。

(担当課) 宿泊施設ということで、宿直勤務があり、金銭管理等の業務も併せて行うことから、臨時職員での対応は困難と考える。今後、宿直業務について嘱託化するなどの変更は、全体の業務のあり方を考える中で検討していきたい。

(委員) 雲溪荘の利用客の居住地別の利用割合はどうか。

(担当課) 今、資料を持ち合わせていないので、後日報告したい。

(委員) うつくしの湯に限らず、市の施設全般的に広告宣伝が下手であると思う。もっと工夫をすれば、利用客が増えると思う。

< 武石番所ヶ原スキー場 > 【担当課：武石地域自治センター産業観光課】

(担当課) 施設自体の経営状況だけを見れば赤字であるが、番所ヶ原スキー場があることによって得られる経済効果は、地域雇用や練馬区民の保養所等の利用などでかなりある。

練馬区民に一年を通じて武石地域を訪れてもらうためには、スキー場は無くしてはならないものと認識している。

スキー場の利用客数の推移を見てみると、他のスキー場はピーク時から客数が半減するなど大きな落ち込みが見られるが、番所ヶ原スキー場は、施設規模が小さいことも関係すると思われるが、ピーク時の7割強の客数を確保している。

(委員) 冬場はスキー場として利用しているが、オフシーズンに何もやらないのはもったいない気がする。東御市の湯の丸高原では、ヤナギランの群生地として観光客の誘致に成功していると聞かすが、番所ヶ原ではそういった高山植物の群生化などの取組はできないか。

夏場の利用方法について、今まで取り組んだことはあるのか。

(担当課) ヤナギランなどの植栽については他の福寿草、アジサイ、つつじなどと同様に観光コースの一環としてできないか今後検討してまいりたい。

夏場の使用形態については、旧武石村時代に、これ以上の経費をかけてスキー場を運営することに消極的であったため、特に何か考えていたということはない。

(委員) スキー場は練馬区と切っても切れない関係であると思うが、そうであれば、練馬区に施設を買い取ってもらうことはできないか。

指定管理者については、武石地域の業者・団体でなければ受けられないということはないので、東京都など他の自治体に管理をお願いすることも考えてみればどうか。

(担当課) 現在、武石開発公社が練馬区の施設を受託しているが、この受託事業により、年間2億8000万円程度の売り上げ(経済効果)があがっており、地域の雇用にも寄与している。

この受託事業を他の自治体にとられてしまうと、武石地域の経済の停滞を招く恐れが強い。

< 上田室内プール(アクアプラザ) > 【教育委員会事務局体育課】

(担当課) アクアプラザは営業面について、体育協会に指定管理者として委託している。機械設備関係の維持管理及び清掃業務については、11の業者に分けて業務委託を行っている。

施設の使用料については、現在、利用料金制は採っていない。

次回の指定管理者選定時には、現在、複数に分けて委託している業務も合わせ、また、利用料金性を導入した形で、指定管理者の公募を行い、決定したい。

当面の経営改善については、指定管理者との協議を行う中で、使用料等の割引などを含めて検討していきたい。

施設もオープンから15年が経過し、施設改修等についても、優先度を考慮しながら、利用者にとって使いやすくなるよう努めていきたい。

(委員) 2.5mプールの可動床について、ほとんど利用されていないが、導入の経過と、今後の在り方についてお聞きしたい。

(担当課) 建設当時は、近隣に可動床があるプールが無く、競技などでの使用を考慮して、最大水深3mの可動床を設置した。しかし、実際に使用するのは、年に数回、警察や消防の訓練、映画やドラマのロケでの使用程度。今後、床を固定した場合と、そのまま継続した場合の両面から検討を加え、費用対効果も検証しながら方針を決定していきたい。

(委員) 単刀直入に、アクアプラザに可動床は必要と考えるか。

(担当課) 現在のところ必要性はないと思われる。

- (委員) 費用の計算をしているようであれば、差し支えない範囲で教えてもらえないか。
- (担当課) 現在の可動床の年間の維持管理に要する経費は約1,000万円。プールを改修(水深1.5mに固定)した場合に要する経費は、維持管理費で年間約350万円、改修工事費については、いろいろな工法があるが、安い工法を採用した場合に約4,000万円から6,000万円必要であると聞いている。
- (委員) 収支状況について、収入が減少しているにも関わらず、状況が改善されているが、なぜか。ささらの湯とアクアプラザでは職員数は大差ないが、人件費に大きな差が生じているが(アクアプラザの方が高額)なぜか。
- (担当課) 収入減については、昨年は合併記念事業の一環で、施設の無料入場券を発行し、無料券での施設利用が増加したため、収入が減少した。支出については、日常から節約に努めるとともに、設備の維持管理に係る業務委託について、競争入札方式を採用したことにより、経費の圧縮が図れた。
- 人件費の差について、体育協会の正規職員は、採用時に給与を上田市職員に準じた形で決定した経過がある。ささらの湯は、主に市職員の退職者を嘱託職員として採用するなど、雇用形態にも違いがあるため。
- (委員) 施設を民間委譲した場合、民間業者は受けると思うか。(採算は採れると思うか。)指定管理者が違う業者等に変更した場合に影響はあるか。
- (担当課) 施設の使用料金を値上げするなど、収支改善を図ることができれば、受け手はいると思う。業者が変更になった場合、多少混乱もあると思うが、大きな影響はないと思う。
- (委員) 現在、市から直接11社に設備の維持管理などを委託しているが、指定管理者から業務を委託することは可能か。委託の主な内容は何か。
- (担当課) 可能である。委託の主な内容は、24時間体制の機械設備の維持管理、施設内の清掃業務など。
- (委員) 24時間体制で行う業務はどんなものか。
- (担当課) 営業時間終了後に行うプールの水の水質管理業務と施設の警備。実際には機械等を動かして行うが、緊急事態への対応を行うため、24時間体制で実施している。
- (委員) 前回施設見学を行った際、施設改修に要する経費はもっと少なかった気がする(2,000万円から3,000万円程度)。工事費は3年でペイできると聞いていたが、この違いは何か。
- (担当課) 正確な見積り書を取ったわけではないので確かなことは言えないが、数ある工法の中で、一番安い工法を選んだ場合、3年から4年でペイできるであろうということ。詳細な検討はこれから行う。
- (委員) 次回の指定管理者を選定する際に、選定条件など市の統一した基準のようなものはあるか。
- (担当課) 市で「指定管理者導入に関する基本的な考え方」を定め、一定の基準の中で選定していく。また、施設個別の条件などについても仕様書に記載していく予定。
- (委員) 条例の中で、指定管理者の選定について、どこまで謳っているのか。
- (事務局) 条例では、具体的な選定方法等は記載されておらず、法令等に準拠した形で記載されている。具体的な選定内容等については、個々の仕様書等で施設の実情に合わせて決めていくこととなる。
- (委員) 指定管理者となれる者は、個人以外のどんな団体でも可能であるというが、現在の指定管理者を選定した理由は何か。
- (担当課) 合併と同時に、これまでの管理運営委託から指定管理者制度へと移行したが、市内の全施設が、これまでの管理運営委託の受託者と指定管理協定を締結した。次回の募集時には、競争により選定を行う。
- (委員) 職員の仕事内容は何か。

(担当課) 自主事業のインストラクターとして、各種教室を開催している他、施設内の安全管理、各種イベント(自主事業)の開催など。

<真田温泉健康ランド(ふれあいさなだ館)>【教育委員会事務局真田地域教育事務所】

(担当課) 真田地域の住民の健康づくりの場として、平成5年にオープン。

施設の特徴としては、温泉とプールが併設されていることであるが、現状として、プールの利用客が少なく、維持管理経費の半分以上がプールに使用されているため、プールがデメリットとなってしまう。

施設の管理は、真田の郷振興公社に指定管理者としてお願いしているが、経営改善等のためのノウハウを持ち合わせていないため、次回の指定管理者選定時には、プールの利用者増と経営改善のノウハウを持ったところをお願いして活性化を図っていきたいと考えている。

灯油等の高騰から、維持経費が1,000万円程度値上がりしている状況である。

施設建設当時は、プール400円、温泉300円、合計700円で営業していたが、現在は、施設共通で400円と破格の料金設定でやっているため、今後の経営改善を図るためには、料金の見直しが必要であると考えている。それとともに、サービスの充実も図っていかねばならないとも感じている。

食堂経営については、食堂が大広間から離れた場所にあるため、なかなか利用されない状況であり改善が必要。

施設にサウナがないため、利用客からの要望が多い。

立地条件などから判断しても、観光客がもっと気軽に利用できるような施設でなければならないと感じている。

振興公社の職員は、旧真田町の職員のOBが多いため、経営改善を図る上でも、職員の意識改革、危機感の醸成などが急務であると考えている。

(委員) 職員の皆様は良くやっており、アクアプラザに比べてプールの人が少なく、気持ちよく利用させてもらっている。健康増進施設としては、赤字を出しても続けていくべきであると考えるが、400円の料金設定は安すぎると思う。温泉とプールを切り離すか、料金の値上げを実施し、少しでも赤字額を減少させることも必要であると思う。

(委員) 他の温泉施設比べても、突出して収支の状況が悪い。中でも人件費が高すぎるため、しっかりと経営改善していく必要があると感じる。

(委員) 施設を廃止した場合の影響はどうか。また、施設全部を別の指定管理者をお願いした場合に生じる影響はどうか。

(担当課) 廃止した場合は、ふれあい福祉の健康ゾーンの拠点施設がなくなることになり、大変大きな影響が出ると思われ、現在のところ、廃止は検討していない。

施設全部を民間に開放した場合は、確かに、経営状況が改善され、収支状況が良くなるかもしれない。しかし、民間に解放することにより、施設が混雑し、ゆったりとプールで泳いでもらえなくなる状況が出てしまい、「空いているから行ってみよう」と思う人は利用しづらくなると思われる。

(委員) びんぐしの湯に行ってみて状況を見てくれば良いと思う。職員の接客態度など大変参考になると思う。

<農林漁業体験実習館(室賀温泉ささらの湯)>【農林部農政課】

(担当課) 課題としては、年々利用者数が増加しており、収支状況も改善方向に向かっているため、利用料金制を導入しても、管理は可能であると考えるが、完全な利用料金制を導入するに際しては、入浴料の値上げを行い、更なる収入の確保が必要である。

現在の施設使用料は、朝風呂200円、昼間・夜間400円となっている。今回課題としてあげている料金改定は、年間券の部分についての値上げを考えたい。現在の年間券の値段は、朝風呂13,000円、昼間・夜間25,000円で販売している。1回あたりに換算すると、朝風呂55円/回、昼間・夜間129円/回と通常料金に比べて非常に安価な設定となっている。

- (委員) 市外在住者の割合が高いようであれば、市民の福利厚生にあまり寄与しているとは考えられないため、多額の税金を投入して運営する必要はないのではないか。料金の値上げについては、ぜひ検討してもらいたい。(意見)
- (委員) 朝風呂と昼・夜風呂の料金が倍違うが、何か特別な理由があるのか。
- (担当課) 朝風呂は入浴のみ。昼・夜風呂は風呂の利用以外に大広間などの利用料金(休憩料)も含まれている。
- (委員) コスト計算はしているのか。出ているのであればお聞かせ願いたい。
- (担当課) 後日事務局を通じて提出したい。
- (委員) ささらの湯を廃止した場合、完全に民間委託した場合の影響はどうか。
- (担当課) 民間に委託することは問題ない。民間に移譲する場合は、条例の取扱、補助金の返還等事務上の手続きで多少混乱が生じると考えられる。補助金返還については、ただ単に返還するということにはならず、国と上田市の関係の悪化を招かないような取組が必要である。
- (委員) 損益分岐点の考え方について、どのように考えているか。
- (担当課) 損益分岐点の概念は持っていない。公共施設であるため、建物の減価償却費などの算出ができず、民間企業のように利潤を追求する施設ではないため。
- (委員) 12月31日は客数が少ないため、営業しないと聞くが、びんぐしの湯では、12月31日だけで2,300人以上の利用者があったと聞いている。12月31日の営業について検討いただきたい。
- (担当課) 検討していきたい。
- (委員) 市内に温泉施設が4つあるが、共通利用券の作成等は考えられないか。
- (担当課) 現在、4つの温泉施設の指定管理者が全て異なるため、難しいと考える。精算業務等に要する経費を考えると、どれだけ効果が上がるか疑問である。今後、公社公団の統合を行っていく中で組織の統合が図られれば十分可能であると思う。

<農業バイオセンター>【農林部農政課】

- (担当課) 育苗部門と研究部門の2つの部門があるが、育苗部門については、行政で行う必要性は低いと考える。現在、民間委譲に向けて農協と協議を重ねているところであるが、結論には至っていない。
- 研究部門については、現在、農家からの問合せ、相談などを多く受けている状況である。今後、希少種などの研究・保存に特化した形で、位置付けを明確化させながら存続させていく考えである。
- (委員) 研究部門について、上田市でやらなければならないのか。農協の試験場などでできないか。
- (担当課) スターチス、りんどうなどの研究を、県の研究機関に依頼したこともあったが、3年の期限が設定されており、継続した研究ができないため、断念した経緯がある。
- (委員) 先日の視察のときにも感じたのだが、所長に対する負担が大きいと考える。産学官の連携などの手法を取り入れることはできないか
- (担当課) 大学との連携は可能であると考えますが、大学の研究部門では、バイオセンターで行っている研究よりも、より高度な研究を行っており、連携することによる大学側のメリットは低いと考える。企業との連携となると、企業は様々な特許を持っており、その取扱いについては調整が困難である

バイオセンターでは、現在の品種の固定化、地域固有種の保存など、より実用的な部分での研究を主としているため、連携は難しいと考える。

(委員) 多額の市税を投入して研究を続けていく必要があるのか疑問を感じる。

(委員) 種の保存、地域固有種の保存はどうしても上田市が行うべき事業であると考えか。

(担当課) 地域固有種の保存ということになれば、農政部門ということよりも、生活環境部門で保護策を講じるべきものであると考える。上田市が関わって行う事業と考える。

(委員) 育苗部門と研究部門で1年間に5,000万円近くの事業費となっているが、育苗部門が民営化された後、研究部門で必要な事業費はどれくらいになるか。

(担当課) 研究部門だけになれば、およそ1年間で500~600万円程度と考える。

(委員) 研究の成果による経済効果はどのように考えるか。

(担当課) 単純にいくらになるとは言えないが、「こうじいらず」という大豆の種の固定が成されれば、いろいろな大豆製品に使用でき、ある程度の経済効果が期待できる。山口大根なども完成すれば、上田の特産物としてひとつのブランドになり、上田市のPRにもつながると考えている。

イ 次回以降の予定について

9つの施設を2つのグループに分けて、2部会でそれぞれの施設経営の見直し案を作成いただきたい。

<日程>

・第1部会

【対象施設：農林漁業体験実習館、鹿教湯健康センター、
真田温泉健康ランドふれあいさなだ館、武石温泉うつくしの湯】

次回日程：平成19年9月25日(火) 14:00~16:00

開催場所：南庁舎5階 第3・4会議室

・第2部会

【対象施設：農業バイオセンター、上田室内プール、鹿教湯国民宿舎鹿月荘、
岳の湯温泉雲溪荘、武石番所ヶ原スキー場】

次回日程：平成19年9月28日(金) 14:00~16:00

開催場所：南庁舎5階 第3・4会議室

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。